

PIANO SILENT SYSTEM

ピアノサイレントシステム取り付けマニュアル

[技術者向け取付マニュアル]

Meister



キーセンサー取付

- ① キーセンサーヘブラケット、スプリング取付
- ② キーセンサーの左右、前後位置出し
- ③ キーセンサーの上下調整
- ④ 反射シートの貼り付け
- ⑤ メインケーブル、ペダルケーブルの連結

メインコントロールユニットとペダルセンサーの配線

- ① ペダルターミナル取付
- ② ペダルセンサー配線
- ③ 内部配線の整理

アクションへミュートバーを取付ける

- ① ハンマーシャンクと弦までの距離を測定
- ② アクションに付いているダンパーストップレールを取り外す
- ③ ミュートバーをブラケットに取付ける
- ④ ミュートバーの調整
- ⑤ ミュートバーレバーの取付及び調整

レッドオフ調整とシステムの初期設定

目次

第1章 | ピアノサイレンサーシステムの構成

1-1. システム配線図(UP/GP)	02
1-2. アップライト用ミュートバーの構造	03

第2章 | ピアノサイレント取付の流れ

04

第3章 | ミュートバーの取付

3-1. 取付についてのポイント	05
3-2. ミュートバーの加工(STANDARDの場合)	06
3-3. ミュートバーの設置	07
3-4. ミュートバーの調節	09
3-5. ミュートバーレバーの取付	13

第4章 | 音源装置の取付

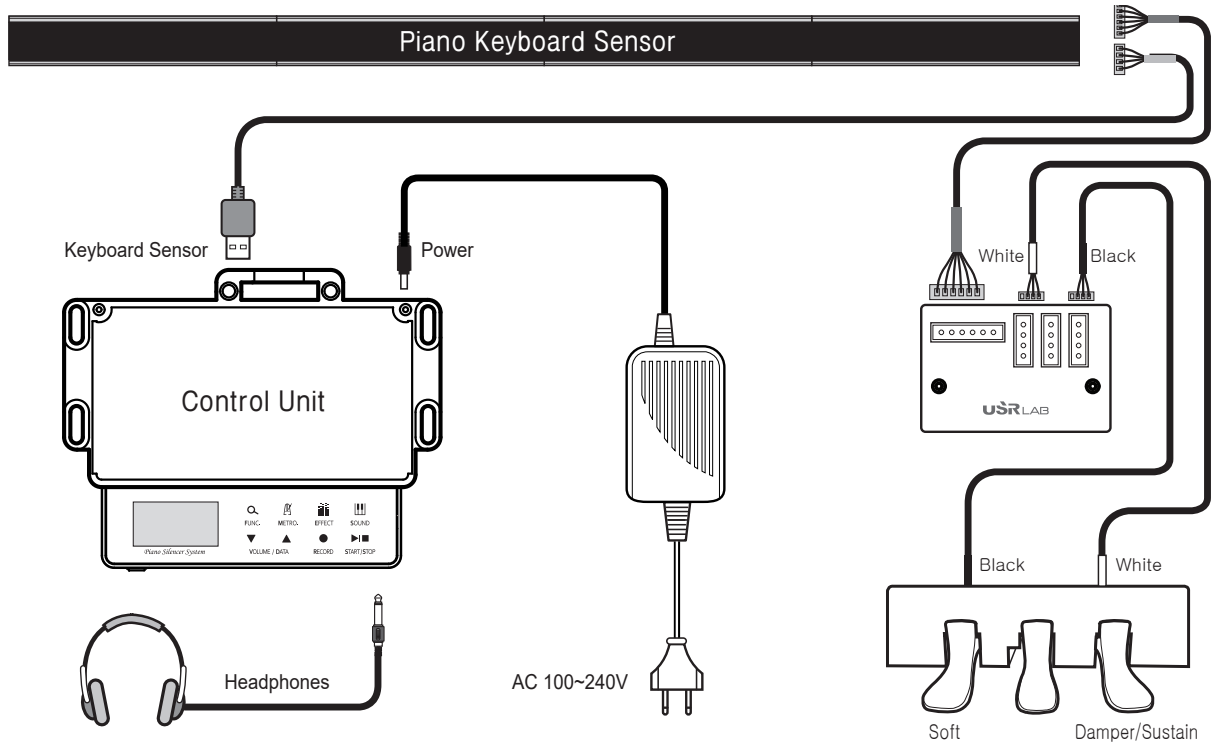
4-1. キーセンサー取付	15
4-2. コントロールユニットの取付	19
4-3. ペダルセンサーの取付	20
4-4. ハンマーレットオフ調整	22

第5章 | システムの初期設定

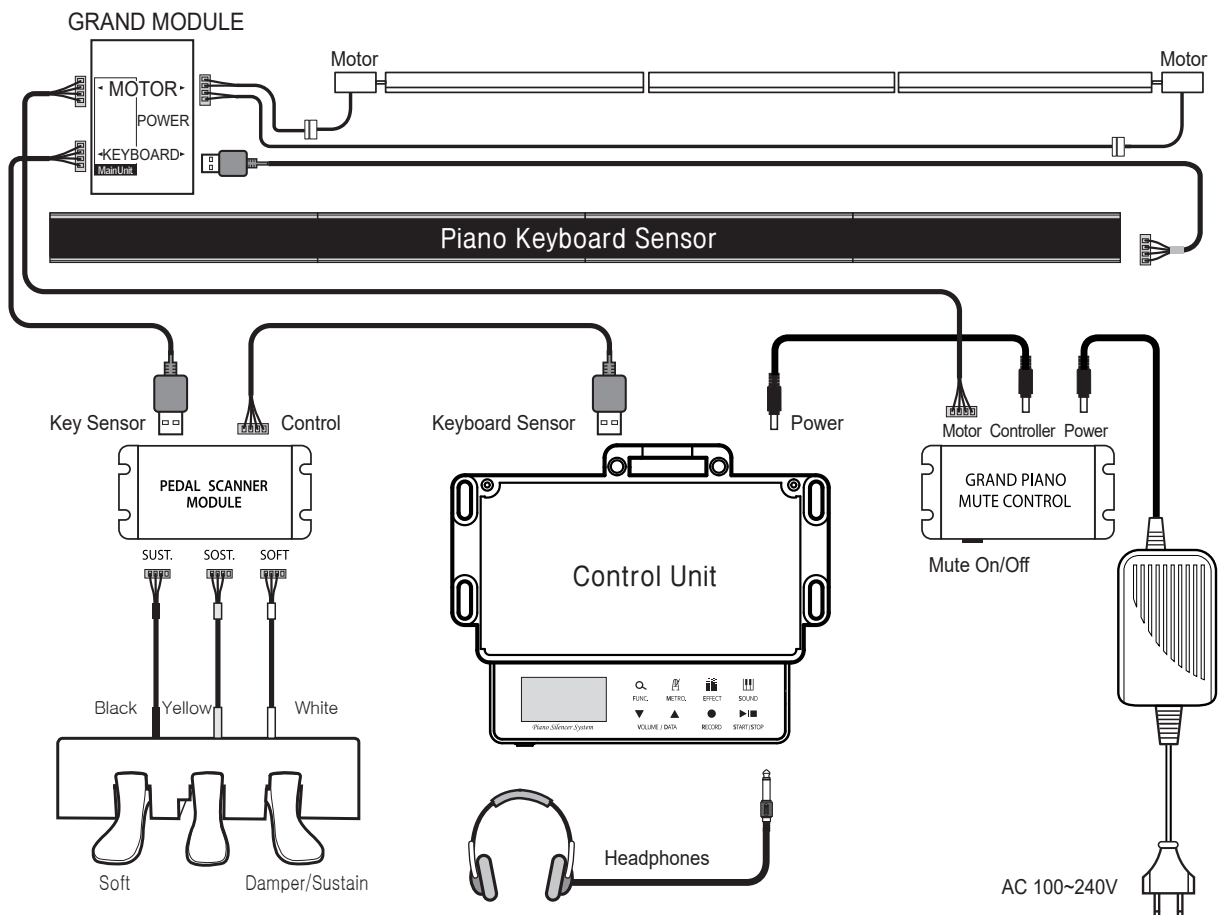
5-1. Premium α	23
5-2. Classic V2	26
5-3. Premium V2	27

1-1. システム配線図

Upright Piano

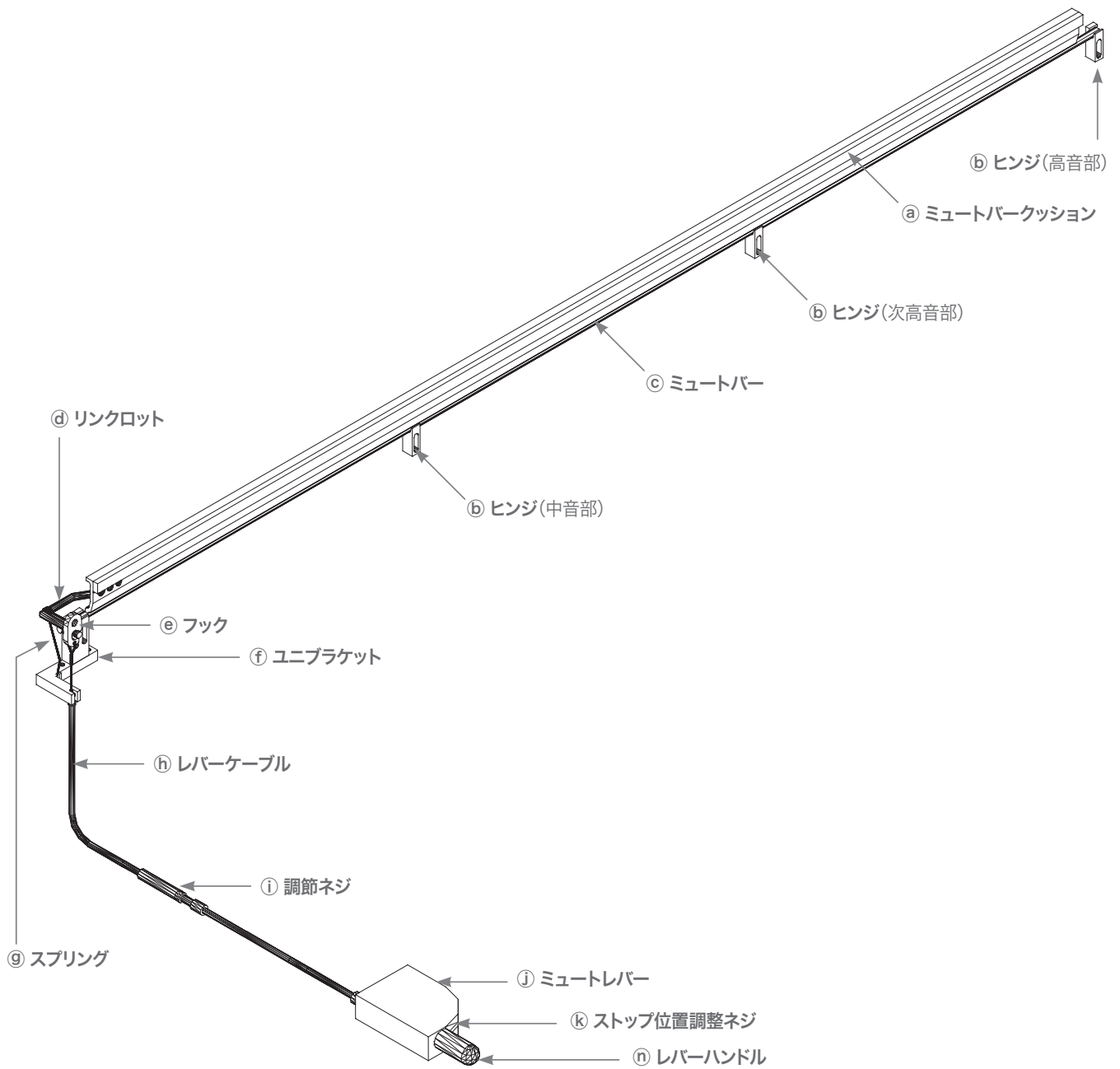


Grand Piano



1-2. アップライト用ミュートバーの構成

ミュートバー、ユニブラケット、ミュートレバーの取付図



A. ミュートバーの取付

- ① ミュートバーの長さ加工(アクション中間ブラケット部の切断)
- ② アクションの実物に合わせてミュートバーを加工する。(STANDARD BARの場合)
- ③ ダンパーストップレールの取り外し
- ④ アクションにミュートバーを取り付ける
- ⑤ ミュートバーの水平出しと高さ調整(※重要ポイント)
- ⑥ ユニブラケットにスプリングを取付てEリングをはめ込む
- ⑦ ミュートレバーを取り付けてバーの消音時の位置と解放位置を調整。

※ 注意事項

- ・ミュートバーは弦に対して均一な距離を保つことが重要です。
(消音時に全てのセクションでハンマーと弦との距離を均一に調整してください)
- ・また、解放時にはダンパーの運動量を妨げない位置を保つ必要があります。
(必要に応じてダンパーとミュートバーの間に緩衝用フェルトなど貼ることもあります)

B. キーセンサーの取付

- ① すべての鍵盤を取り外し、キーセンサーを仮置きしたあと、セクションごとに黒鍵を置き高さ調整用スプリングの長さを確認します。必要に応じてスプリングを切断する場合があります。
- ② キーセンサーの最高音部に「MAIN」と「PEDAL」のケーブルをしっかりと差し込みます。
- ③ キーセンサーへ固定用ブラケットを取付の際は、先にブラケットにスプリングをはめ込んでからキーセンサーに装着します。
- ④ セクションごとに黒鍵を設置し(5Keyほど)黒鍵の下面とキーセンサー上面の隙間を基準に合わせて調整します。
- ⑤ すべての鍵盤の裏面にキーセンサーのセンサー部分に合わせて反射シートを貼ります。

C. 仕上げ

- ① ミュートバーを消音位置に引いて、ハンマーレットオフを調整します。
- ② システムの初期設定を行う。
- ③ 初期設定後、音(電子音)のバランスを調整する。鍵盤ごとの感度調整を行う。
- ④ 最後に雑音が発生していないか全キーをたたいてチェックします。

※ 注意事項

- ・レットオフはシャンクがミュートクッションに触れる直前にしっかり抜ける位置で合わせます。
- ・レバー開放時(通常のピアノ状態のとき)に各セクションのダンパーの運動量がしっかり保っているかを確認してください。

A. 取り付けについてのポイント(重要)

サイレントシステムの取付においてハンマーシャックを止めるミュートバーの取り付けがもっとも重要な工程です。ミュートバー取付状態が不完全だと消音時の音漏れ、生音の演奏時の雑音などピアノ演奏を妨げる重大な問題が生じます。特に消音解除時の生音演奏時にダンパーの通常機能の確保が重要です。比較的新しいKAWAIのモデルについてはミドルエンド部のダンパー運動量を確保するため細心の注意が必要です。

KAWAIの特殊モデルには専用の取付金具もご用意していますので是非お問い合わせください。ミュートバーの取付には十分に注意していただき正確な動作を保つようお願い致します。



本サイレントシステムの注文の際は次の内容を留意願います。

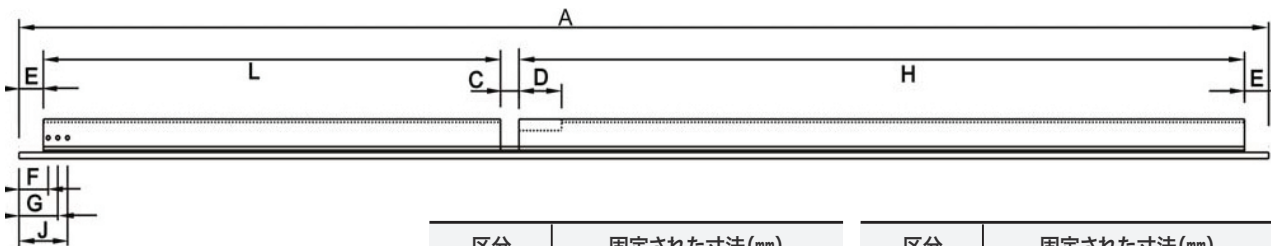
弊社では、YAMAHA、KAWAIの汎用モデル用には、既に加工済のミュートバーをご用意しています。また、汎用品でないモデルでも注文時にアクションサイズを測定いただければミュートバーの加工も承ります。その場合、納期がかかる場合がありますので予めご了承ください。

B. アクションサイズ測定方法

下記図のように各ブラケットのセンターを基準に距離を測って低音部、高音部の各長さを指定してください。



ミュートバー加工寸法



区分	固定された寸法(mm)	区分	固定された寸法(mm)
A	$2 * E + L + C + H$	G	50
C	20	J	60
E	30	L	低音部距離: 20
F	40	H	中高音部距離: 20

A. ミュートバー(STANDARD BAR)加工手順

ミュートバーの素材はアルミの一体型となります。
加工にはドリル、鉄鋸、ヤスリ、ペンチなどが必要です。



① 鉄鋸で切れ目を入れます。



② 鉄鋸で切れ目を入れます。



③ 45°角度調整できる鉄鋸をお勧めします。



④ 加工後の形状



⑤ 加工後の形状



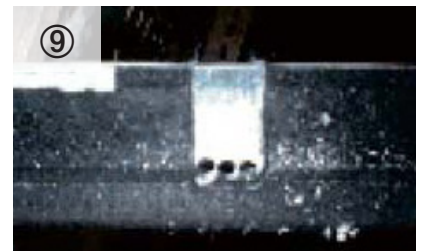
⑥ 中音ブラケット部、切断位置の印をします。



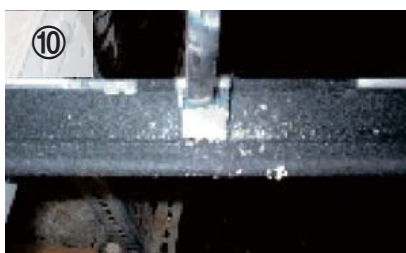
⑦ 鉄鋸で縦に2カ所切り込みを入れ、根元の部分はドリルで穴開けします。



⑧ ドリル加工



⑨ 穴明け後



⑩ プライヤーで折り曲げながら切り取ります。



⑪ 切り取り後



⑫ 切り取り面をヤスリで整えます。



⑬ 仕上げ後



⑭ 付属のフェルトで裏面を整えます。



⑮ 完成

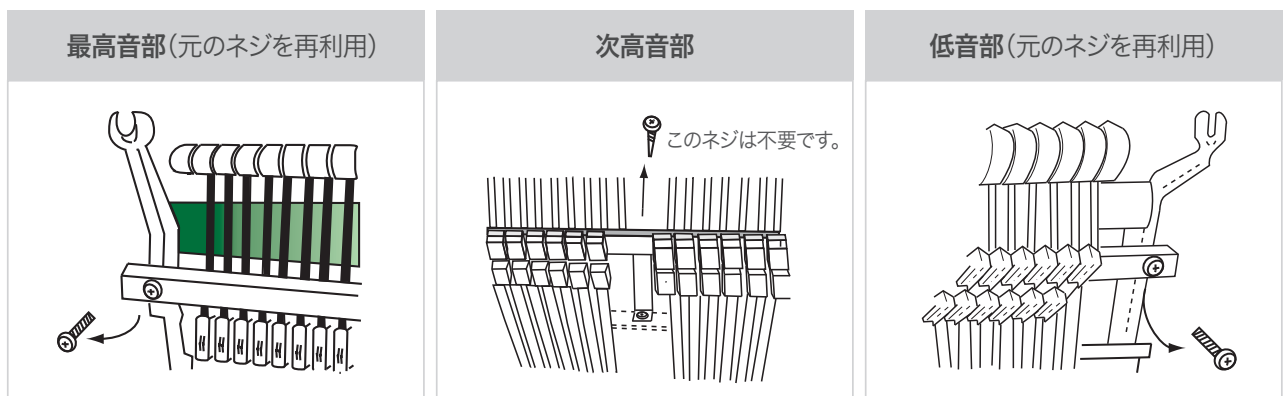
A. ミュートバーの取付

アクションを取り外す前に各セクションごとに(ブラケット横)ハンマーシャンクと弦迄の距離を測定します。そうすることで後にミュートバーの前後調整作業の参考となります。

- ① 各アクションブラケットの隣のハンマーを弦に当たるまで前進させハンマーレールを基準にシャンクの裏側までの距離を記録します。(4か所:低音部、中音部、次高音部、高音部)
- ② 測定した数値のなかで一番広いものを基準に他の個所との差(何mm)を記録します。
- ③ ミュートバーを取り付けるときアクションブラケットとヒンジの間に記録した厚みだけスペーサーを挟んでボルト締めします。
- ④ 次にミュートレバーを取り付けます。ミュートレバーを消音の位置、手前に引いた状態でハンマーシャンクをミュートバーのクッションに接触するまで前進させ先ほど同様ハンマーレールを基準にシャンクの裏側までの距離を測定します。
- ⑤ ミュートバーレバーを解放位置に戻し鍵盤を押してみてもダンパーブロックのネジ頭がミュートバーに接触していないかを確認します。もし接触していたらレバー奥の調整ネジでミュートバーの解放時の位置を調整します。

B. ミュートバー(STANDARD BAR)取付方法

- 1) アクションからダンパーストップレールを取り外す。(ネジ4か所)取り外したネジはミュートバー取付時に再利用します。

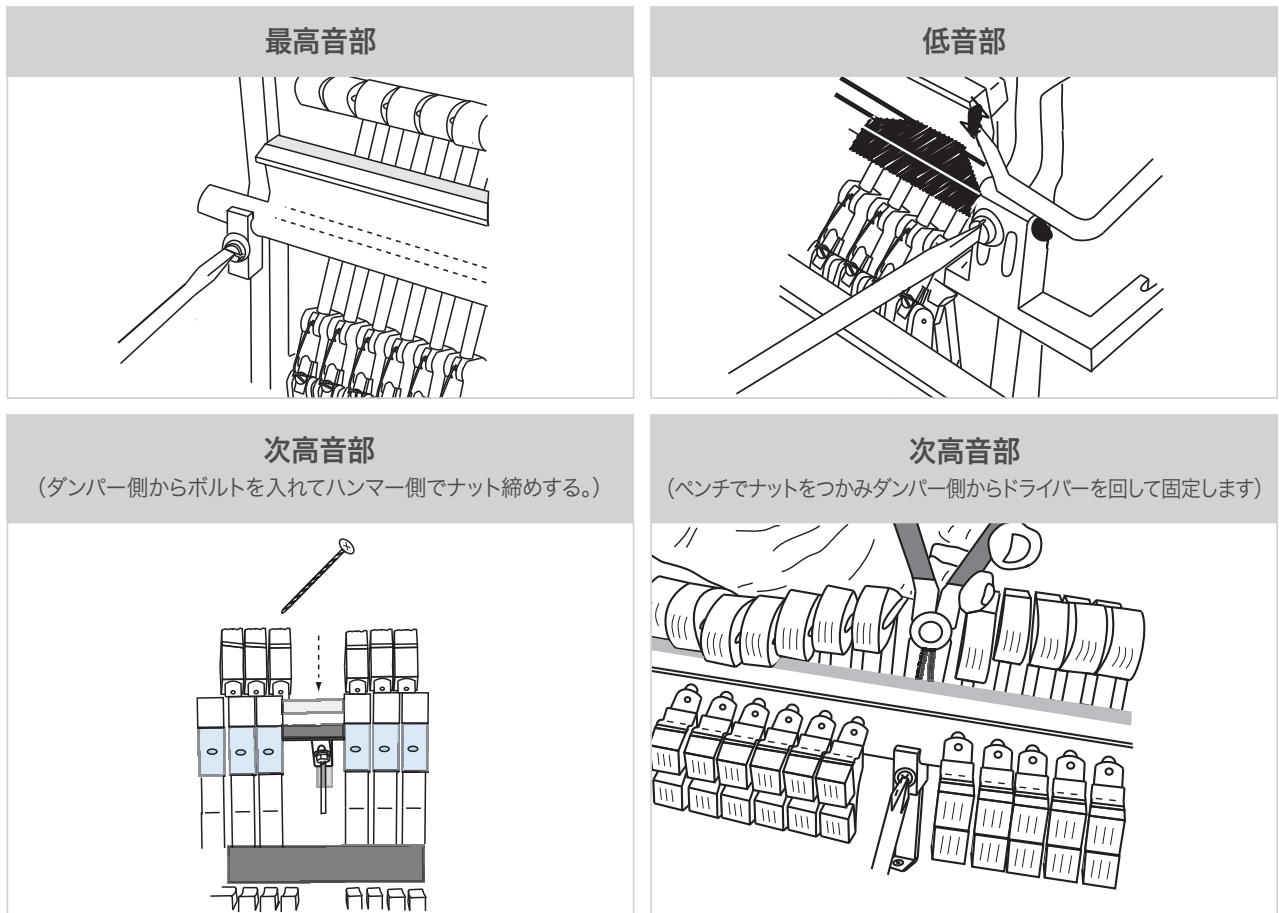


ヤマハのようにもともと強度が高いL字金具(次高音部)が付いている場合、取り外さずそのまま利用することもあります。

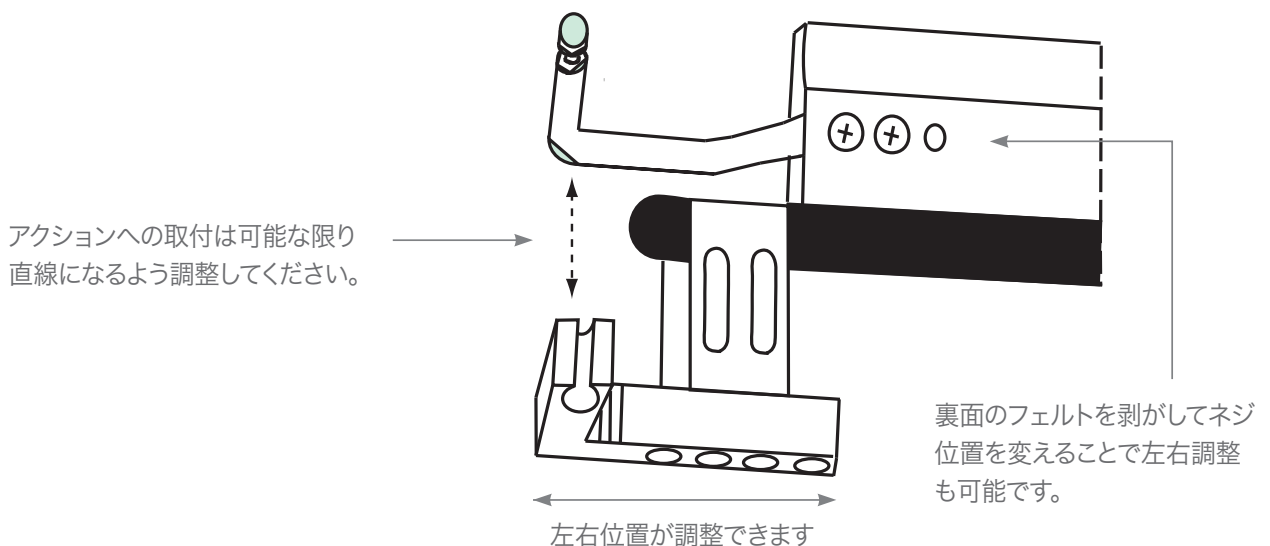
- ・ カワイのY字のワイヤーで固定されているものは付属のL字金具に付け替えてください。
- ・ 付け替える場合はセンターレールのフレンジガイドの出っぱりをヤスリで落とします。
- ・ その他メーカーのピアノも強度の弱いものについては付属のL字金具に付け替えてください。

3-3. ミュートバーの取付

ミュートバーを固定するヒンジの穴は上下に調整可能な楕円になっています。初期取付時は穴の上部、即ちミュートバーが一番低い位置になるところで仮止めします。その後、アクションの現物に合わせてハンマーに近づけたりして上下調整を行います。最高音部は低音部に比べよりハンマーに近づけて取り付けることもあります。



2) ミュートバーの低音側にユニブラケットを差し込む。



3-4. ミュートバーの調整(重要)

A. 調整の順序

本作業はミュートバーを取付後、消音時の弦とハンマーのストップ位置を全セクション均一にするための重要な作業です。

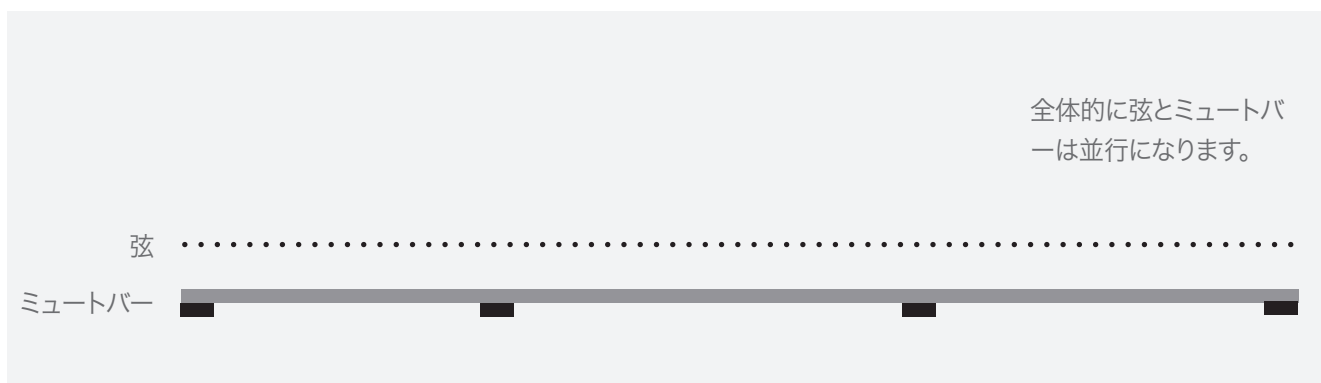
全key(ハンマー)が均等なストップ位置を保つことによって結果的にレットオフの均一が保たれバランス良い鍵盤タッチ作られます。

もし、ストップ位置にバラつきがあるとセクションごとに音漏れや、レットオフの広、狭が生じタッチのバラつきが発生します。

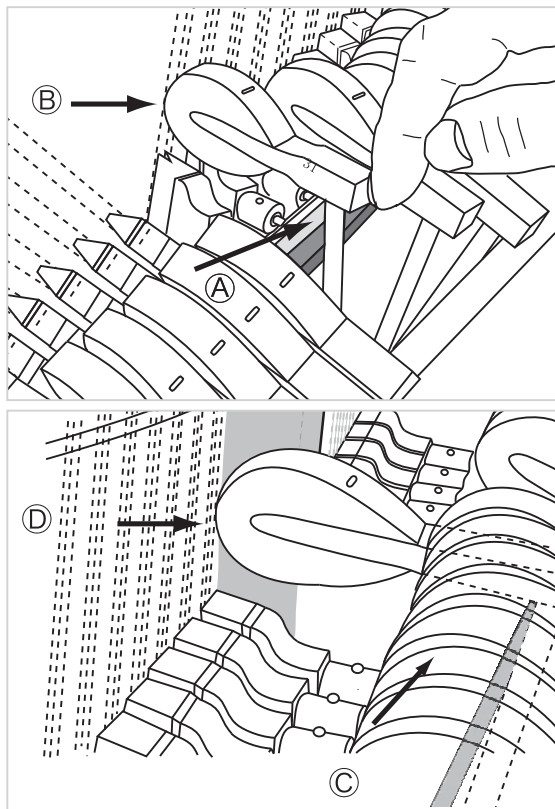
消音ユニット取り付けにおいて大変重要な工程となりますので手順にしたがって調整いただけますようお願いいたします。

- ① ミュートバー取付後、レバーを消音解除位置に置き基準になる個所を決めます。低音、中音、次高音、最高音 4セクションそれぞれ固定ヒンジに近いハンマーで基準を取ります。
- ② ミュートバー左リンクロットを動かしながら、どのセクションのハンマーが先に弦に接触するかを確認します。
- ③ 先に接触したハンマー(セクション)が基準となります。また基準となったセクションのヒンジには前後調整用のスペーサーは入れません。
- ④ 基準セクションが決まれば他のセクション(ハンマー)が基準に比べ何mm離れているかを確認します。
- ⑤ 離れている距離に合わせて同封の調整スペーサーをヒンジとブラケットの間に挟み込みます。(スペーサーを厚く入れただけハンマーは弦に接近します。)
- ⑥ 実際にアクションをピアノに合わせて全てのセクションのハンマーが均一に弦に接触するまでこの作業を繰り返します。
- ⑦ ミュートバーを消音状態にした時、全てのセクションでハンマーと弦との距離が均一になれば完了です。

真上から見て弦とミュートバーの位置関係をしるした図です。



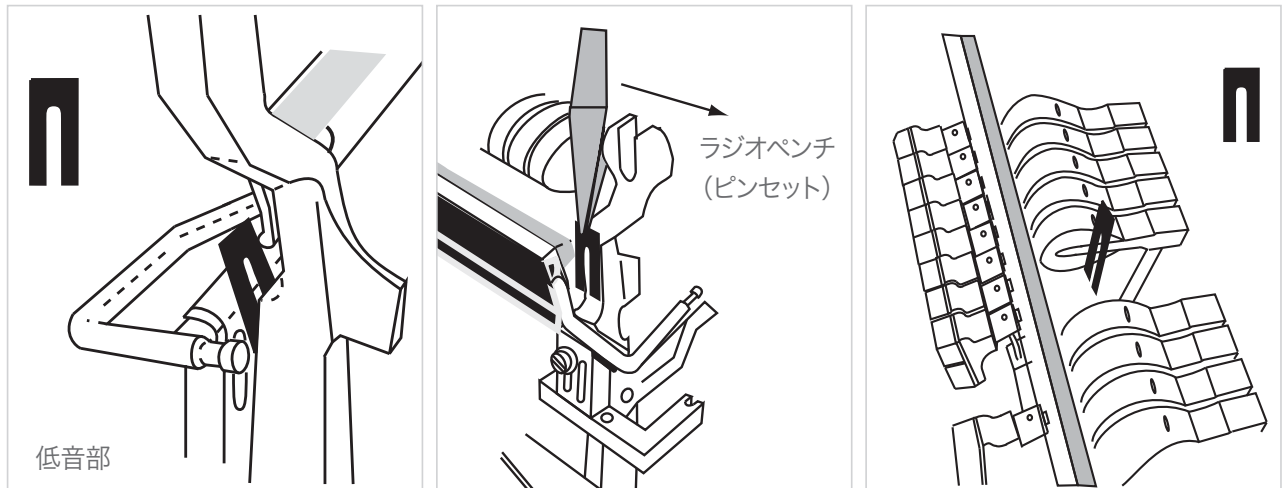
ミュートバーの調整



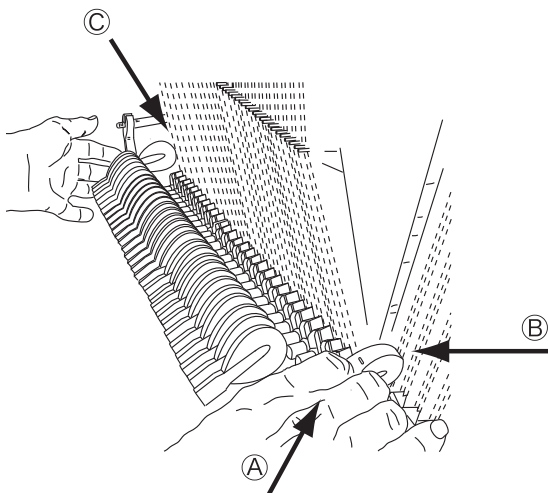
- ① ミュートバー左リンクロッドを左手でゆっくり手前に引きます。同時に右手で中音部のハンマーをゆっくり弦方向に動かしシャンクをミュートバーのクッションに合わせます(A)
- ② そのままハンマーを弦に当たるまで前進させます。(B)
- ③ (B)のように中音部ハンマーが弦に当たった時点でレールを止め次に次高音部のハンマーを動かしシャンクがレールに当たるまで押してみます。
- ④ その時点で次高音部のハンマーと弦の間に隙間が生じたら、既に弦と当たっている中音部が基準となります。
- ⑤ もし中音部でなく、次高音が先に弦に当たるようなら基準は次高音部となります。
- ⑥ 繰り返しミュートバー左リンクロッドを左手でゆっくり手前に引きます。次高音部のハンマーをゆっくり弦方向に動かしシャンクを先にミュートバーのクッションに合わせます(C)そのままハンマーを弦に当たるまで前進させます。(D)ハンマーが弦に当たった時点でレールを止め次に中音部のハンマーを動かしシャンクがレールに当たるまで押し出します。
- ⑦ その時点で中音部のハンマーと弦の間に隙間が生じたら、既に弦と当たっている次高音部が基準となります。
- ⑧ このように先にハンマーが弦に接触したセクションが基準となります。ほとんどのピアノで中音部、次高音部が基準となるケースが多いですが、稀に最低音部、最高音部が先に当たり基準となることも有りますので注意してください。
- ⑨ 基準のセクション(ハンマー)が決まれば、他のセクションとの誤差を確認します。この時点ではミュートバーが弦に対して並行ではないと考えられます。
- ⑩ 基準セクションに対して他のセクションのハンマーと弦の隙間分だけミュートバーが手前側(鍵盤側)に寄っていることとなります。
- ⑪ その隙間分だけ各セクションのブラケットとヒンジの間に付属のスペーサーを挟み調整します。事前に誤差数値を記録することで作業が速やかに行えます。

3-4. ミュートバーの調整

アクションを取り外しミュートバーの距離調整が必要なセクションのハンジ固定ネジを緩め付属のスペーサー(3mmまたは1mm)重ねブラケットとハンジの間に挟み込みます。

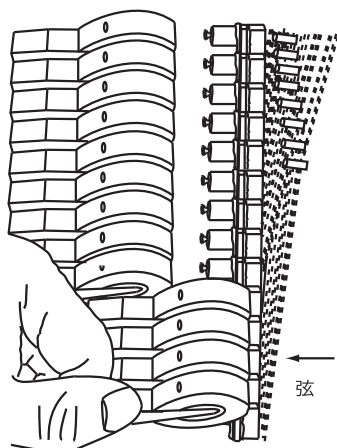


(テーパースペーサーはミュートバーを全体的に手前(鍵盤側)持ってきたい場合に利用します。ミュートバーが手前に傾くことで運動量が増えます。通常のアクションで使用することは有りません。)KAWAI 旧型アクション(KU-5)に使用することがあります。



確認作業

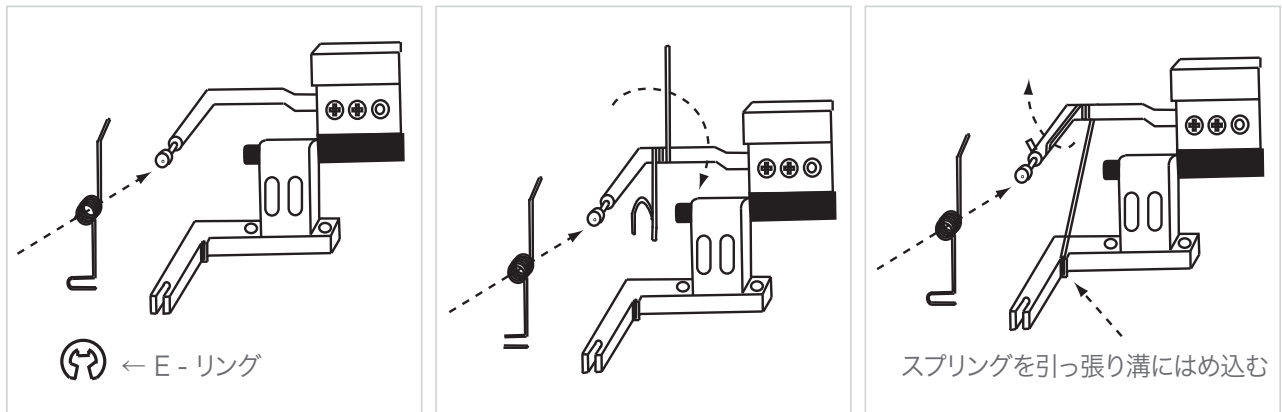
- ・ 右手親指で中音部のハンマーをミュートバーに当て中指で固定します。(A)
 - ・ この状態でゆっくりハンマーを弦に当たるまで前進させます。(B)
 - ・ この状態で左手で最低音部のハンマーを弦に当ててみます。(C)
 - ・ まだ弦との間に隙間が生じるようならスペーサーで調整します。
-
- ・ 全てのセクションにおいてハンマーと弦との隙間が均一であればミュートバーの取り付けが平行であると言えます。



3-4. ミュートバーの取付

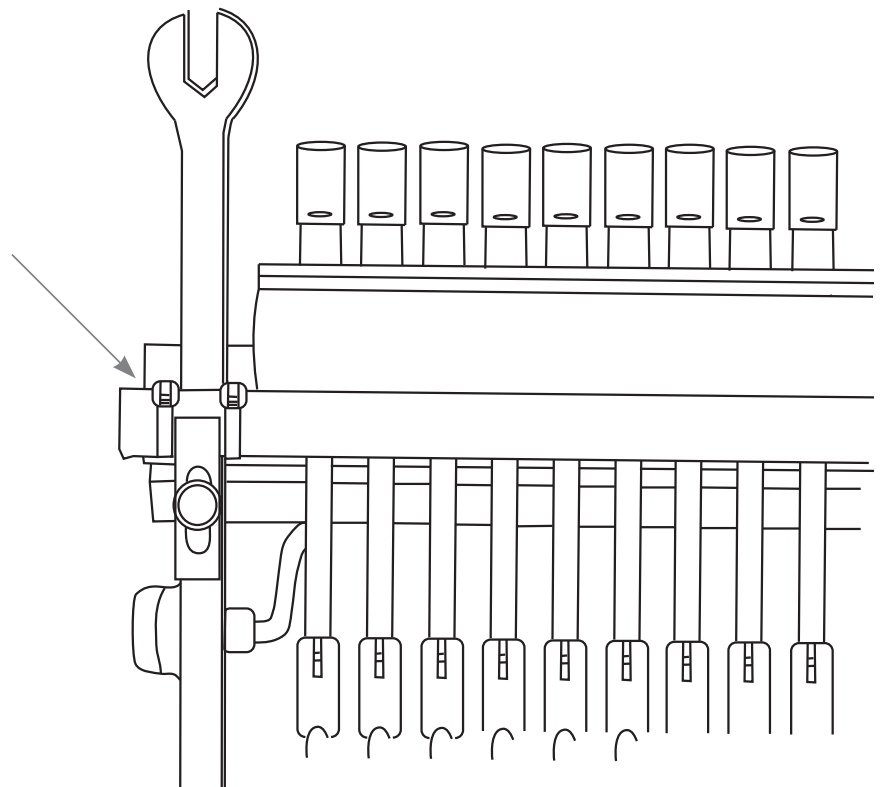
ミュートバー取付仕上げ

E-リングをはめ込む際は一般的なプライヤーを使用しますが、TAMIYA 4mm E-リング専用工具なども便利です。



- ・スプリングを通した後、E-リングをくぼみ手前にはめ込みます。

ミュートバーの左右ズレ防止のため、最高音部のヒンジ両脇に付属の結束バンドを装着します。



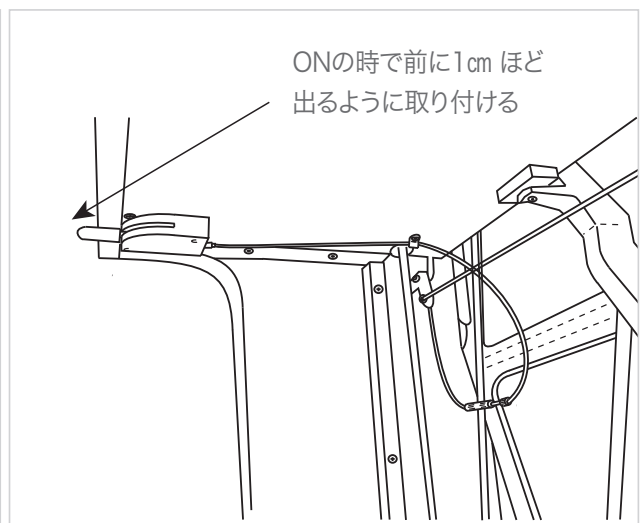
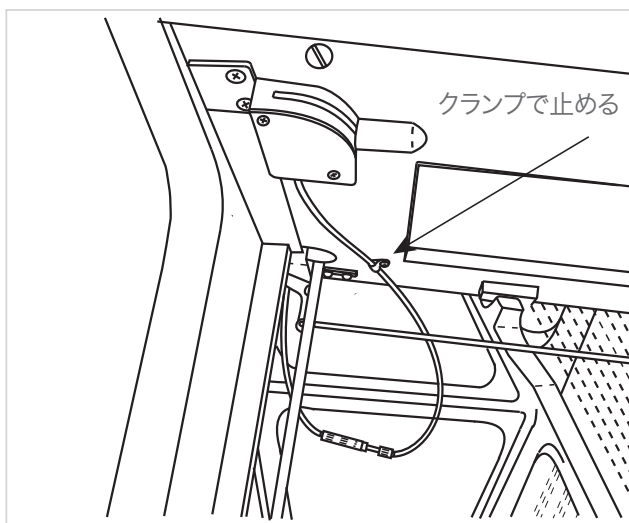
- ・ミュートバー取付完了後、アクションをピアノに取り付けます。その際にペダル突き上げ棒やアクションボルトの固定を再確認願います。

3-5. 消音レバーの取付

消音レバーの取付

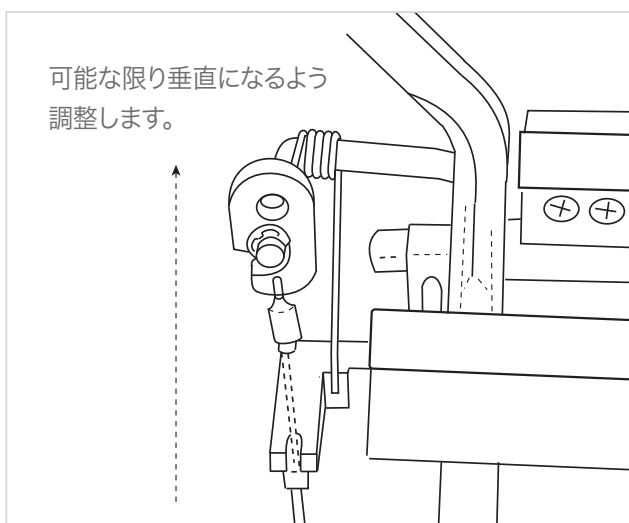
付属の木ネジで棚板裏の低音側に取り付けます。前後位置はレバーがON(前に引いたとき)の時、1cm程度出るよう取り付けます。取付後はワイヤーに無理が無いようクランプで止めます。

消音レバー取付位置

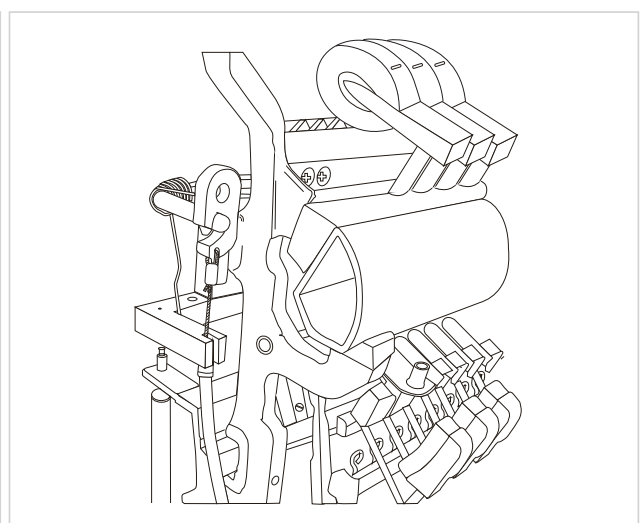


・消音レバー取付後はワイヤーに無理が無いようクランプで止めます。

・ワイヤーの動きに負荷が無いよう円弧を描くように固定します。



・ワイヤーフックをリングロットへ引っかける



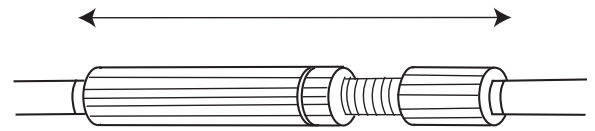
・E-リングはロットのくぼみ手前側にはめ込む。

・ユニブラケットは裏側のボルトで左右に調整が可能です。

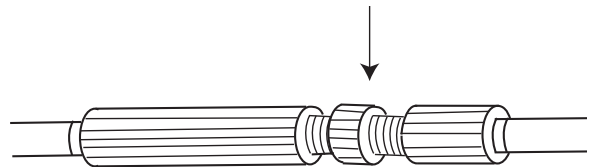
3-5. 消音レバーの取付

1) 長さ調整

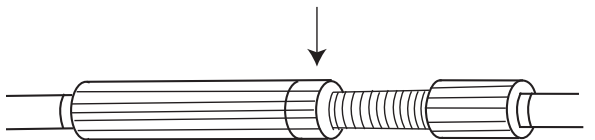
調整ネジを回して左右に広げるとミュートバーが手前に動きます。したがってハンマーが早く止まり弦との距離が広がります。



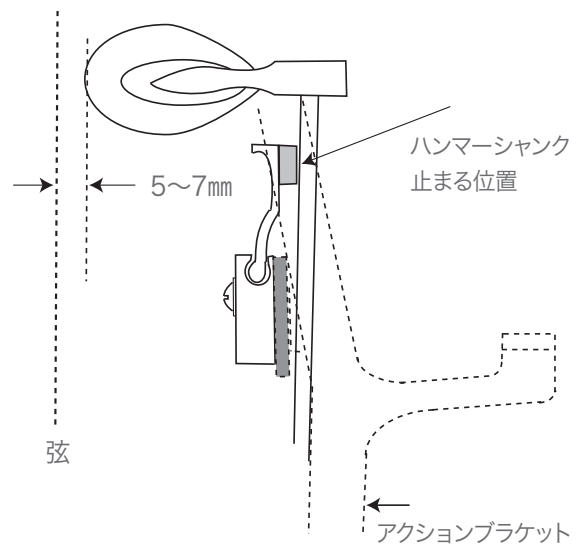
2) 真ん中のネジを緩めます。



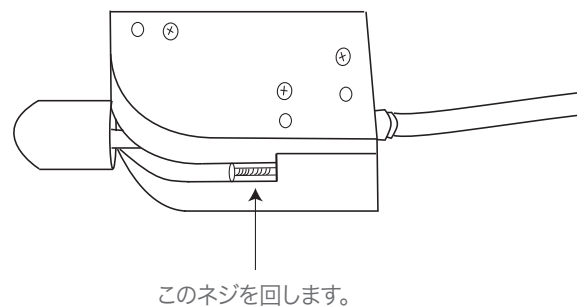
3) 調整後は真ん中のネジを締めて固定します。



推奨位置はハンマーと弦の距離が5~7mmです。ピアノの状況に合わせて固定位置を決めてください。調整が済んだら真ん中のネジを締めて固定します。演奏者の要望によりレットオフの距離を縮めることもあります。



レバーの右奥に小さいネジが有ります。
+ No.1 サイズドライバーで右に締めるとレバーが奥に行きミュートバーが解放時によりダンパー側に近づきます。反対に左に緩めるとレバーが手前で止まりミュートバーが解放時にダンパーから遠くなります。



生演奏時は常にハンマーシャンクがミュートバーに接触せず、またダンパーブロックとも接触しない位置を保つよう調整願います。

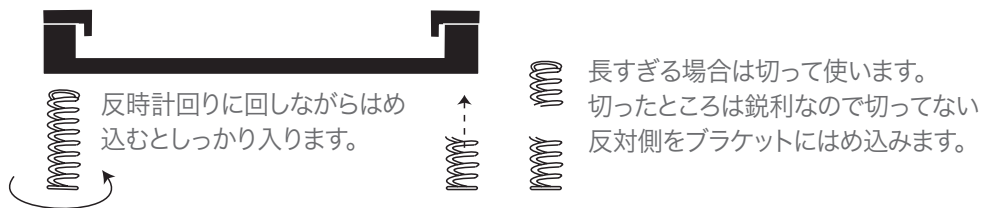
4-1. キーセンサーの取付

A. キーセンサの取付

鍵盤を取り外し、棚の上のほこりを除去してからキーセンサーを取り付けます。



1) ブラケットにスプリングをはめ込みます。



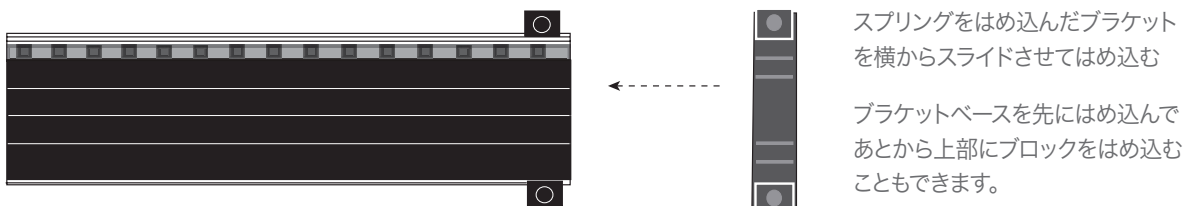
キーセンサーを低い位置に取り付ける場合はスプリングを適切なサイズに切って使います。



カワイの場合、鍵盤と棚のスペースが非常に狭いのでブラケットの上部ブロックだけを使って取り付ける事もあります。

2) スプリングをはめ込んだブラケットをキーセンサーに取り付ける。

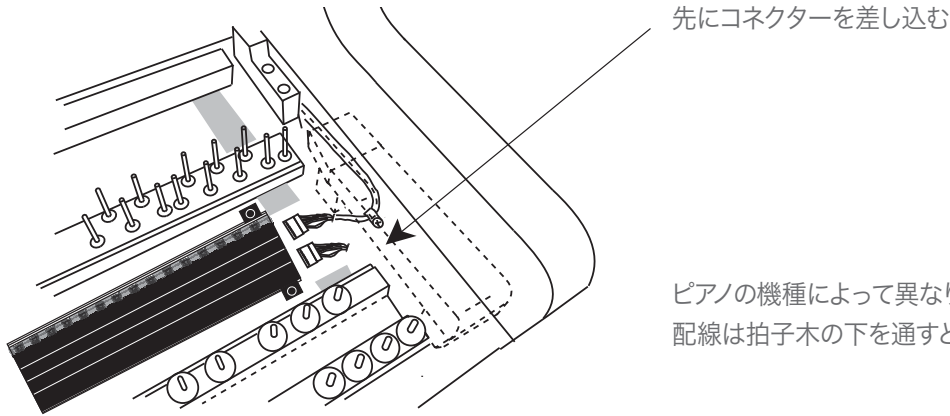
アップライトは5カ所、グランドは棚おさ部分に4～5カ所



ブラケットは5カ所、間隔を均等に取り付けます。キーセンサーを上から見ると基盤が4つに分かれています。その境界線を目安にブラケットを取り付けると均等に取り付けることができます。グランドの場合はおさが基準になるので均等には着きません。

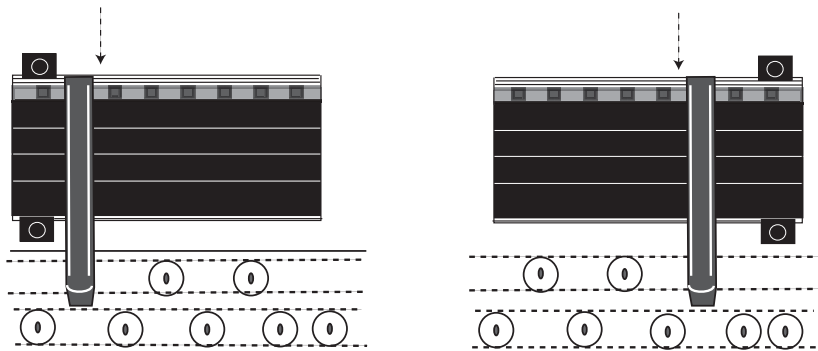
4-1. キーセンサーの取付

3) 音源部の取付



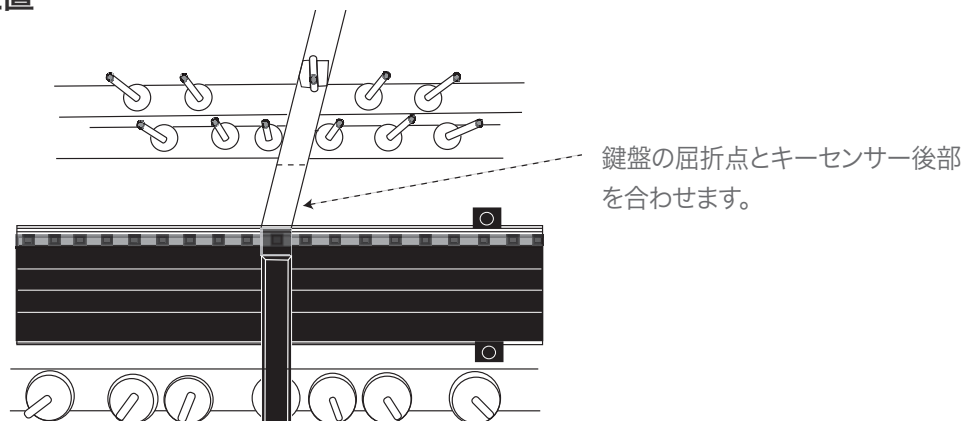
キーセンサーの左右位置

最低音部と最高音部黒鍵に合わせて位置出しをします。極端に鍵盤の割が狭く割り振りが出来ないピアノの場合、キーセンサーの保護カバーを外して4分割された基盤のネジを緩めて左右にずらして調整することもできます。

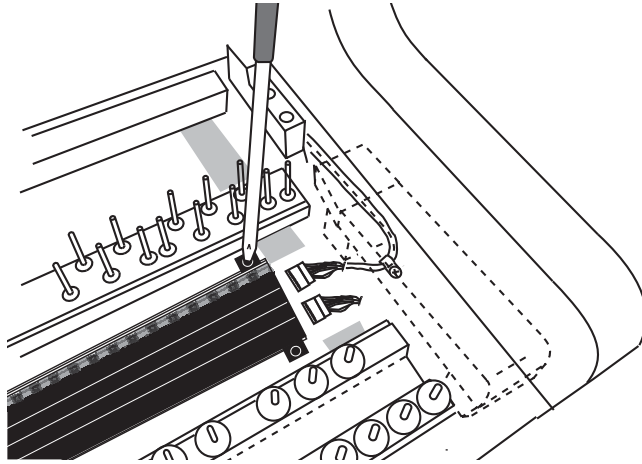


キーNo.2と86の黒鍵を利用し左右位置を割り振ります。

キーセンサーの前後位置

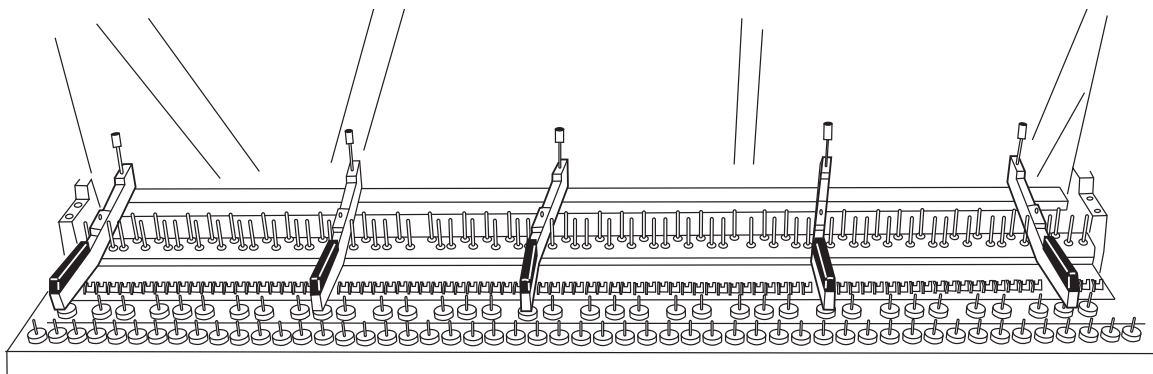


4-1. キーセンサーの取付



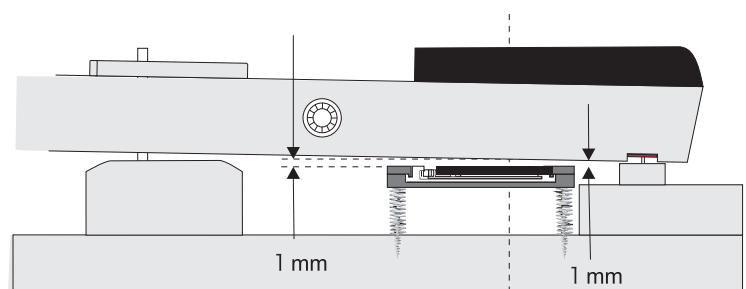
各セクションのブラケットのネジを少しずつ締めながらキーセンサーを固定します。

高さ調整のためセクションごとに黒鍵を4～5本設置します。



キーセンサーの高さ調整

- ・ キーセンサー奥側と鍵盤(黒鍵)下面との隙間を1mm以下に調整します。
- ・ 手前側は1.7mmとします。
- ・ 強打しても鍵盤がキーセンサーに接触しないよう注意してください。
- ・ 多少の誤差は最終初期設定時に補正します。
- ・ ミュートバー取付時に利用する付属の1mmスペーサーを利用するとより正確に調整ができます。

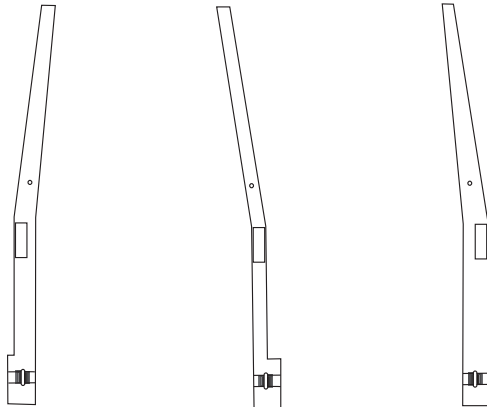


4-2. 反射シートの貼り付け

キーセンサーのセンサー部分に合わせて鍵盤の下面に反射シートを貼ります。

最低音A1keyは裏側から見て左側に、最高音C88keyは右側に貼り付けます。

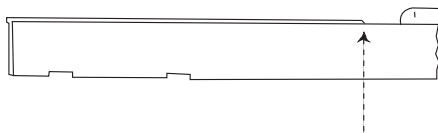
鍵盤下面



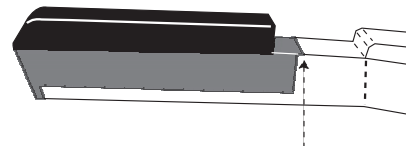
黒鍵下面



白鍵は白いアクリル後部を目安にします。

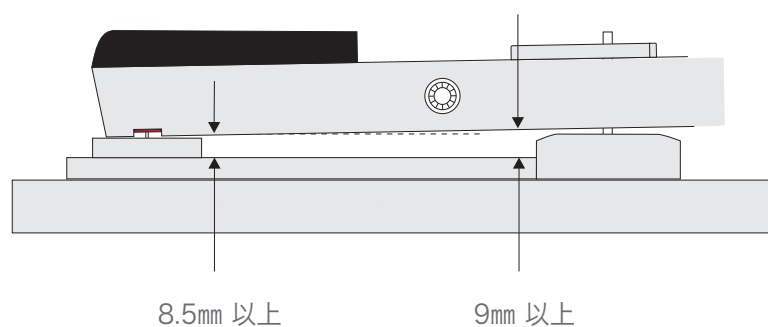


黒鍵は後部の黒ニス塗布部分を目安にします。

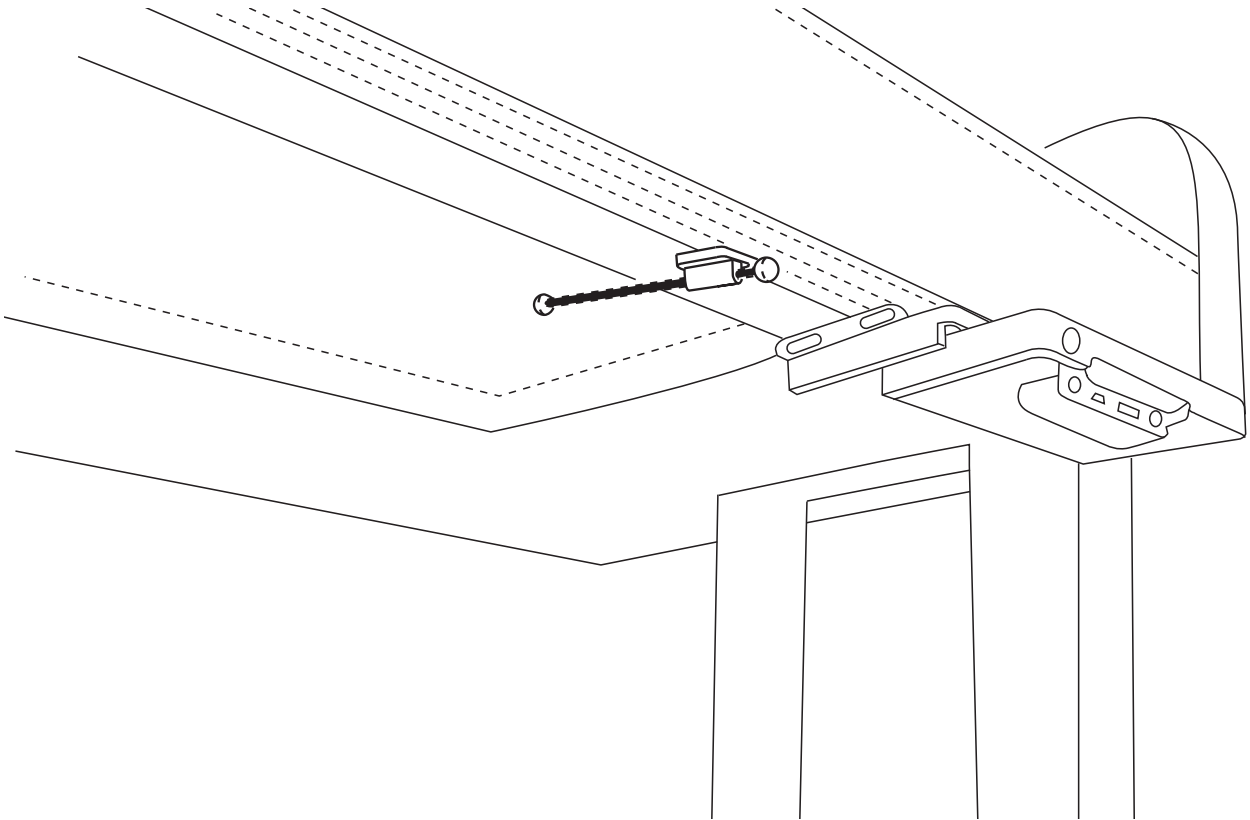


キーセンサー上下位置

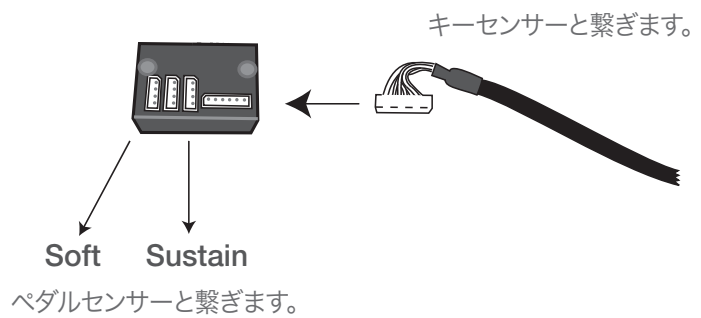
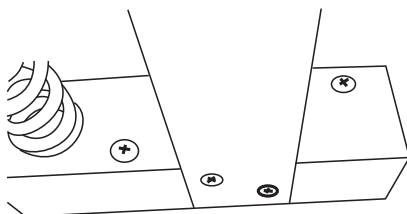
カワイのピアノに取付ける場合に要する隙間は黒鍵を基準に前が8.5mm以上、バランスレール側が9mm以上です。最近のモデルはそれぞれ10.5mm、11mm程度に変わっているので問題ないのですが以前のモデルは、長期使用の過程でフェルトなどがつぶれ鍵盤が下がるので上下の再調整が必要です。



4-4. ペダルセンサー取付



ペダルターミナルを底板高音側に取付けます。

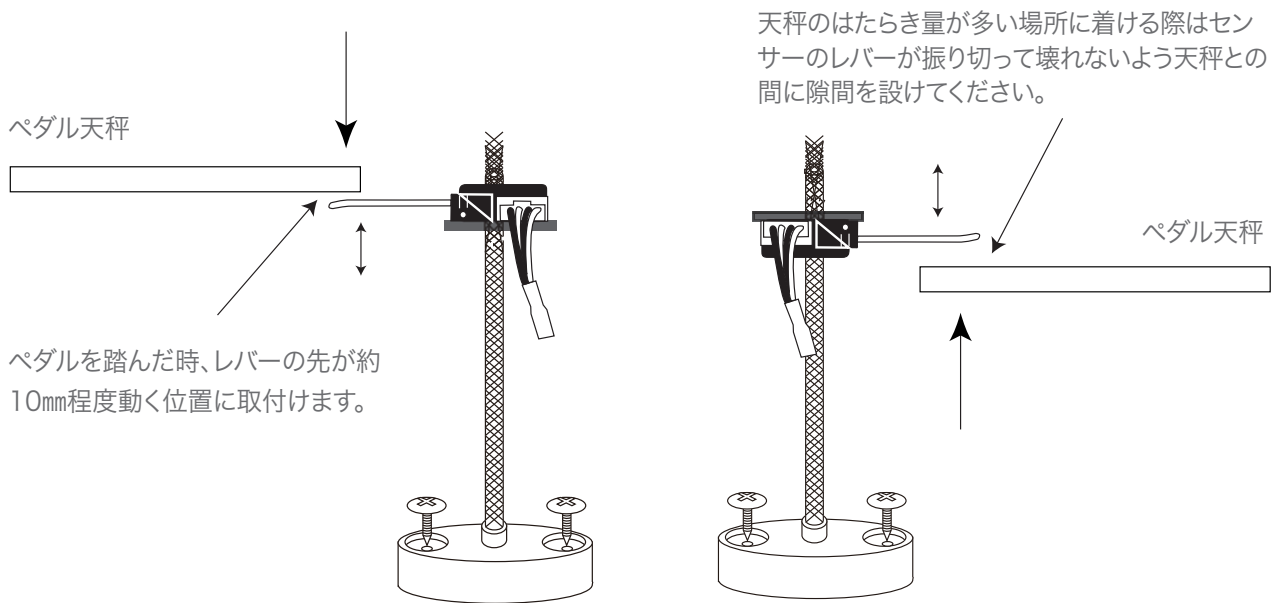


4-5. ペダルセンサー取付

A. ペダルセンサーは天秤の上部もしくは、下部(逆にして)にも取り付けられます。

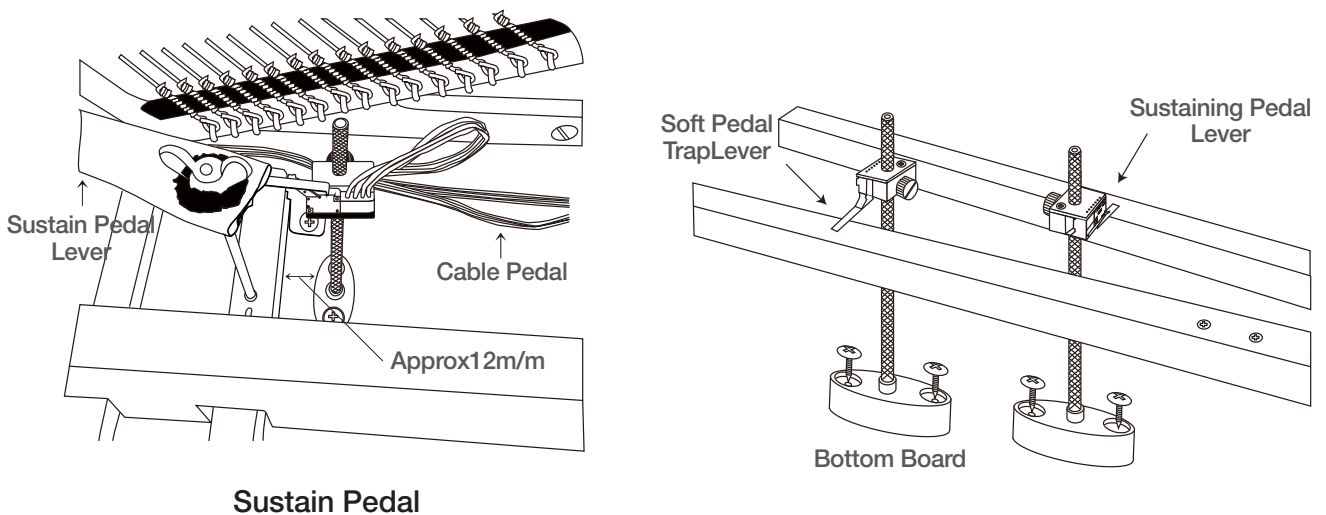
構造はシンプルなON-OFFスイッチです。ペダルの天秤のはたらきに合わせてセンサーの固定位置を決めます。スイッチのON-OFFのタイミングはシステムメニューで調整可能です。

1) ケーブルは、色、長さが逆にならないよう正しく差し込んでください。(配線図参照)



2) ペダルセンサーを底板に取付けます。

ペダルセンサーを天秤の左側に取付ける場合は、はたらき量が多いので注意してください。センサーレバーが振り切るほど動くと故障の原因になります。適度な隙間を確保してください。

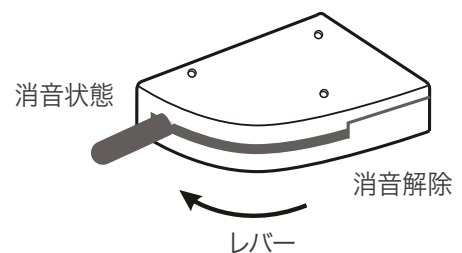


5-1. システムの初期設定 (Premium モデル)

本製品は消音状態で気兼ねなく演奏をお楽しみいただけるよう音源は鍵盤の下に設置されたキーセンサーによって発音されます。鍵盤の動きをこのキーセンサーに設置された光センサーが読み取り、信号をMIDIデータに変換することで発音されます。本機種には鍵盤の動きを正確に読み取る高性能な光センサーが搭載されています。本機械取付後は鍵盤の動きをこの光センサーに読み込ませそのデータを本体コントロールユニットに記録させる必要が有ります。この設定が正確に行われないと音の発音不良や強弱のバラつきなどが発生することになります。したがって最も重要な最後の工程になりますので留意願います。

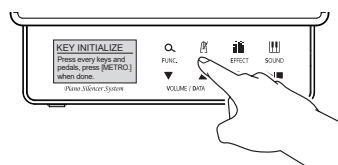
A. 初期設定をする前に

- 1) 本製品の配線が全て正常につながっているかをご確認ください。
- 2) ミュートレバーを手前に引き消音状態にします。
- 3) 初期設定前は全ての鍵盤が上がっていることを確認します。
- 4) レットオフが全て抜けているかを確認してください。レットオフが抜けない状態で初期設定をすると鍵盤が下まで下がらずセンサーが正確に読み込むことができません。



B. 初期設定をする

- 1) 電源を入れシステムが作動する前に[METRO]ボタンを押し画面が切り替わるのを待ちます。画面が切り替わってから[METRO]ボタンから手を離します。



KEY INITIALIZE
Press every keys and pedals, and press [METRO.] when done.

- 2) 全ての鍵盤とペダルを均等な力で押します。
 - ・ヘッドホンを装着し、最低音部から鍵盤を押しながら音を出していきます。
 - ・設定が認識された鍵盤は音を発します。
 - ・音を発した後に再度同鍵盤を2秒以上押しと後に押した音が記憶されます。
 - ・もし音が出ない鍵盤がある場合は、キーセンサーの上下位置を確認のうえ初期設定を最初からやり直してください。

- 3) 鍵盤の初期設定が終了したら左右ペダルを均一な力で踏んでください。正常に読み込むと和音が鳴ります。

- 4) 鍵盤とペダルの初期設定が終了したら再度[METRO]ボタンを押して終了します。
 - ・初期設定終了後、数秒でメインユニットにデータが記憶され画面が変わったら演奏可能となります。

HOME
Preset Sound
P1 : Piano 1

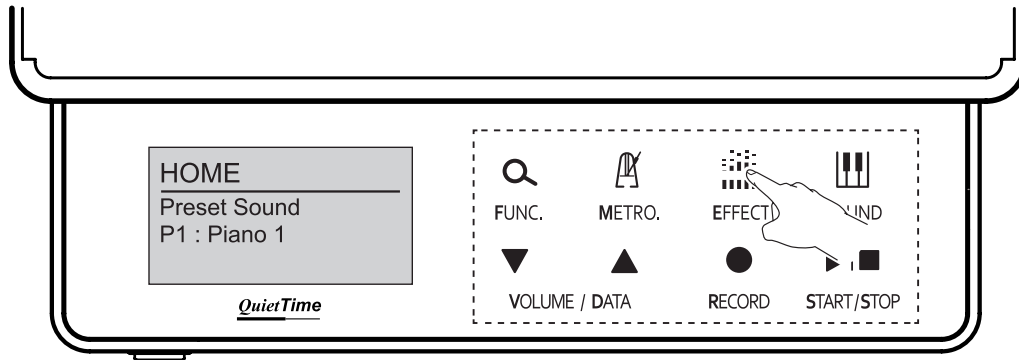


消音機取り付け後、長期間ピアノが放置されたり、引っ越しなどで環境が変わった際は、鍵盤の深さに変化が生じる場合があるため必ず本工程(システムの初期設定)を行ってください。

5-1. ペダルのかかりのタイミング調整 (Premium モデル)

第5章 システムの初期設定

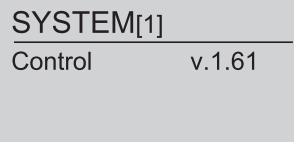
ペダルのかかるタイミングは初期設定により設定されますが、深さのタイミングについてはシステムメニューからプログラム変更が可能です。本機能利用には最新バージョンのアップデートが必要です。



A. ペダルのタイミングを調整します。

- 1) [FUNC.]ボタンと[SOUND]ボタンを同時に押します。
- 2) 画が変わったら再度[FUNC.]ボタンを押してシステムメニュー[15]に移ります。
[15] Pedal-On Adj. の画面になるまで押します。

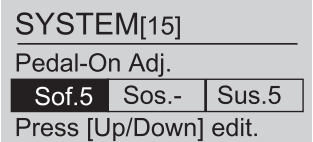
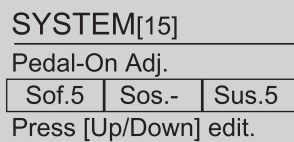
・システム設定モード



▼, ▲を押すと Sof.5 (ソフトペダル)に移ります。

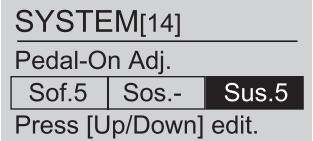
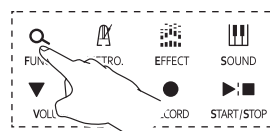
再度 ▼, ▲ を押してタイミングを調整します。

数値が高いほど早く(浅く)、反対に小さいほど遅く(深く)作動します。

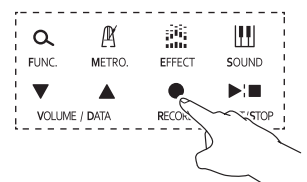


[FUNC.]ボタンを押すと Sos.- → Sos.5 (ダンパーペダル)に移動します。

先ほどと同じように▼, ▲ を押しながらタイミングを調整します。



調整が済んだら[RECORD]ボタンを押すとデータが記憶されます。



5-1. 鍵盤の感度調整

初期設定をすることで全てのKeyがある程度一定の音量で発音しますが、ピアノの状態により多少強弱にバラつきが生じることがあります。その場合、個別Keyの音量調整が可能です。

A. 鍵盤ごとの感度調整

1) 電源を入れシステムが作動する前に [RECORD] ボタンを押し画面が切り替わるのを待ちます。

- ・数秒後に次の画面に切り替わります。

KEY SENSE ADJ.

Number :
Sense :
Push [Rec.] to Finish.

2) ヘッドホーンを装着し鍵盤を押しながら調整が必要なKeyを探します。
探したら▼, ▲ボタンで調整します。

- ・ [▼] ボタンを押すとボリュームが小さくなります。
- ・ [▲] ボタンを押すとボリュームが大きくなります。
- ・最後に合わせて音が記憶されます。
- ・調整範囲は 000～255段階です。

KEY SENSE ADJ.

Number : 57
Sense : 130
Push [Rec.] to Finish.

3) 全ての鍵盤の調整が終了したら [RECORD] ボタンを押して
データをメインユニットに記憶させます。

HOME

Preset Sound
P1 : Piano 1

B. システムの調整機能

1) 初期画面で[FUNC.]ボタンと[SOUND]ボタンを同時に押すとシステム調整画面になります。

2) 画面が変わったら再度[FUNC.]ボタンを押しながら設定項目を選んだ後に ▼, ▲ボタンで調整します。

3) 調整後 [SOUND] ボタンを押すとデータが記憶され初期画面 HOMEに戻ります。

SYSTEM

Control v1.03
Key v1.05

_1	Firmware Versionの表示 (変更不可)	con : Control Unit ホームウェア key : Sensor Rail ホームウェア
_2	Start-Up 音色	初期始動時の音色を選択 (Preset 17音色から選択)
_3	Start-Up Volume	初期始動時の音量を選択 初期値:60 調整幅:0 ~ 100
_4	Line in Gain	初期値:-10dB, 調整幅:0 ~ -79dB
_5	Line Out Gain	初期値:0dB, 調整幅:0 ~ 79dB, Vol(設定音量と同一)
_6	システムの初期化	全ての設定値、メモリを工場出荷時に戻す。
_7	LCD Contrast	調整幅:0 ~ 30, 初期値は工場にてセッティング
_8	LCD Back light 自動消灯時間	Auto - off, Always On, 10秒, 20秒, 30秒
_9	時間設定	システムに内蔵されている時計を調整する機能
_10	トリル時の Note off 挿入	On / Off, 初期値 : Off
_11	Key タッチ 連打補正	Off, 10 ~ 400 初期値 : 250
_12	Key タッチ 和音補正	Off, 10 ~ 300 初期値 : Off
_13	Midi output channel	1 ~ 16 初期値 : 1
_14	電源自動Off時間設定	基本設定 : Off, 5n(分) ~ 12h(時間)まで設定可能
_15	ペダルタイミング位置調整	各ペダルのタイミング調整 0 ~ 10, 初期値 : 5

5-2. システムの初期設定 (Classic V2)

CLASSIC V2 消音システムは、新規取り付け後はもちろん、アクション、鍵盤などの整調や引越しなどで設置状況に変化があった場合、必ず初期設定を行う必要があります。

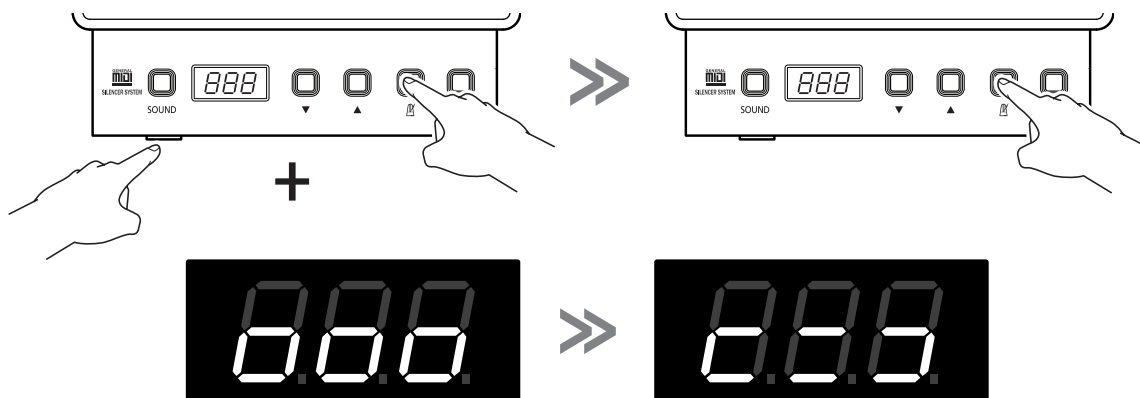
初期化することで鍵盤の微妙な動きを本システムに記憶させ最適の状態での演奏が可能となります。正しく初期設定がなされない場合、発音不良の原因になりますのでご注意ください。

初期化の前に

- ① 本システムの配線連結が完全であること
- ② 消音レバーが消音位置にあること
- ③ 設定前に鍵盤が押されていないこと
- ④ レットオフ等の消音システムに合ったピアノ調整が済んでいること

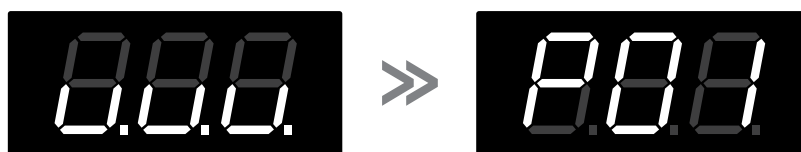
初期設定手順


[] ボタンを押しながら電源を入れる。3秒ほど長押しし画面が初期設定モードに変わるまで待機します。



画面が変わったことを確認できたら全ての鍵盤とペダルをしっかりと押します。

- ・ 1 Keyごと鍵盤をしっかりと押すことにより初期設定が完了し音を発します。
- ・ 初期設定が済んだKeyは、連続して弾くと音を発します。
- ・ 2秒以上の長押しで何度でも初期設定が可能です。その場合最後のデータが記憶されます。
- ・ 万が一、Keyごとの初期設定ができない場合は、電源を切り最初から全Keyの初期設定をしてください。
- ・ 鍵盤の初期設定が終了したら左右のペダルを1回ずつ踏んでください。



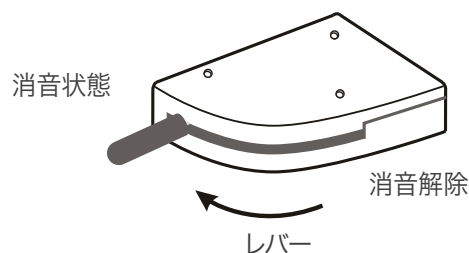
- ・ 全ての鍵盤、ペダルを弾き終わったら[] ボタンを押します。
- ・ このように1秒ほど画面が表示されその後「P01」に変わります。
- ・ これで演奏が可能となります。

5-3. システムの初期設定 (Premium V2)

本システムは消音状態で演奏者だけがデジタルピアノ音を聞くことができるように、鍵盤の下でセンサーが鍵盤の動きに合わせて変化する光を測定することによる信号を、本体のスキンプログラムにより再生に必要なMIDI信号に変換します。本システムは連続的位置検出を採用しているため、取り付け後に鍵盤とキーセンサーの感度調整をシステム初期設定により、最適な感度によるデジタル再生を行います。

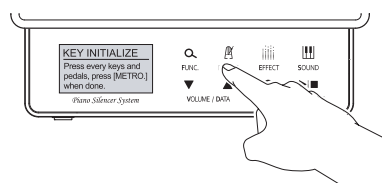
A. 初期設定の前に

- 1) 本システムの配線連結が完全であること
- 2) 消音レバーが消音位置にあること
- 3) 設定前に鍵盤が押されてないこと
- 4) レットオフ等の消音システムに合ったピアノ調整が済んでいること



B. 初期設定モード

- 1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[METRO.]ボタンを押しつつ、次の画面が表示されたら、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。



KEY INITIALIZE

Release button and wait ...

- 2) 88鍵盤を順番にひとつずつメゾフォルテぐらいの強さでしっかりと押し音を発音させます。弾いた鍵盤が初期化されると該当鍵盤の音が鳴ります。認識済の鍵盤は短く弾くと発音します。鍵盤を再び2秒以上押さえると該当鍵盤は再び上書きされ初期化します。初期化されない場合は、一度電源を切って最初の手順からやり直します。

KEY INITIALIZE

Press every keys and pedals, press [METRO.] when done.

- 3) 各ペダルを一度ずつ踏みます。正常なら和音をが鳴ります。

KEY INITIALIZE

Memolizing ...

- 4) 88鍵全てを弾いた後に[METRO.]ボタンを短く押します。保存が完了するまで同画面のまま待ちます。初期設定が完了すると画面がHOMEに変わり演奏が可能となります。

HOME

Preset Sound
P1 : Piano 1

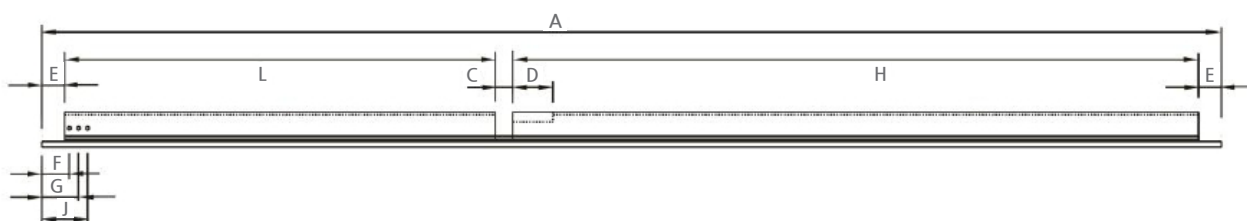


初期設定操作は、通常取付技術者が行います。
また、引っ越しや長時間使わなかった時など環境変化に応じて再度初期設定を行う事をお勧めします。

ミュートバーの種類

*2024年基準

UNIT = mm



SIZE

L = Size of Low Part -20
 H = Size of High Part -20
 $A = 2 * E + L + C + H$

FIXED SIZE

C = 20 G = 50
 E = 30 J = 60
 F = 40

	Model	基本モデル	L	H	C	D
YAMAHA	Y131	Y131	385	885	20	70
	Y121	Y121	415	875	0	90
Kawai	K132	K132	410	880	20	70
	K125	K125	390	860	20	70
KB15	KB15	KB15	459	791	20	70
UP118	UP118	UP118	440	820	20	70
Standard	Standard	Standard	400	910	0	180

ハンマーシャンクストップ ミュートバーの選択

ハンマーシャンクストップバーは、7種類から選択できます。機種に合わせて適合するバーを選択して下さい。

YAMAHA 適応機種一覧

Y121	基本モデル U1、U2型一部に適合
Y131	基本モデル U3型に適合
STANDARD	上記以外の機種用としてノーカットバーがあります。ピアノ本に合わせて加工が必要です。

KAWAI 適応機種一覧

ストップバー	機種	高さ	製造番号
K125	BL12, BL31	124 ~ 125	500,000 ~ 1,050,000
	BL51	127	500,000 ~ 1,050,000
	KS2F	124	1,050,000 ~ 1,400,000
	KS3F	125	1,050,000 ~ 1,400,000
	NS10, NS15, KD-5E	124 ~ 125	1,400,000 ~ 1,700,000
	NS25	127	1,400,000 ~ 1,700,000
	BS10, NS20, XO-2	124 ~ 125	1,700,000 ~ 2,000,000
	BS30, BS20	127	1,700,000 ~ 2,000,000
	BS1A, AT-14, XO-1, XO-5	122	2,000,000 ~ 2,200,000
	BS2A, US5X	125	2,000,000 ~ 2,200,000
	CX21D, HA-35	120	2,200,000 ~
	KS1A, KS1F	124	
	si16, si17	117	
	K7, K5, K55, KL502		
	K700, K500, K71, K70		
KU50, LD77, KUX78			
Diapason 125, 132B, Boston 118, Boston 126 (L金具 普通サイズ)			
K132	BL61, BL71, BL82, KU5D	132	500,000 ~ 1,050,000
	KS5F, DS70, DS80	132	1,050,000 ~ 1,400,000
	KL32, KL901, KL82	132	
	US50, US60, US70, US80	132	1,050,000 ~ 1,400,000
	NS35, KS32	132	1,400,000 ~ 1,700,000
	US55, US65, US75, US7X	132	1,400,000 ~ 1,700,000
	BS40, BS3A	132	1,700,000 ~ 2,000,000
	US63H	132	1,700,000 ~ 2,000,000
	US6X, US7X, US8X	132	2,000,000 ~ 2,200,000
	KD-70S	132	
	CD800, SA-8E	132	
	MARCHEN MS600	132	
	UP118	ki65, Ki650	115
C880, C81F		115	
k2, LD-22MF, CS14		114	
LD-200MF, LD-22DW		114	
ki60, KL62KF		114	
K200, K300, K400, K3, C-580F		122	
si15		112	
KB15	KB15, Ki58, Ki57, C-113N	113	
	CL-4	104	
	C-480, C-380, NF-15, KB20	113	
STANDARD	KU1, KU-10, KU2, KS1, KS2	1324 ~ 127	
	KU3, KU5, K50, K35, KL-51KF	132	
	KL11, K480		